

パーキンソン病に対する転倒予防を目的とした運動療法

研究代表者 大阪大学 阿部 和夫

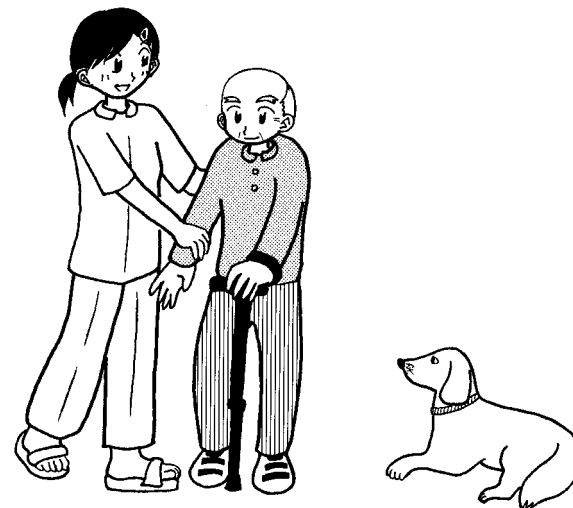
パーキンソン病では、患者さんがよく転倒されます。また、介助者もヒヤリハットを経験されたり、介助の結果腰痛などの障害を発生することがあります。

本研究では、パーキンソン病患者の重症度、転倒回数、下肢筋力を評価し、歩行訓練、筋力増強訓練、自転車エルゴメーターを用いた運動療法を実施しました。

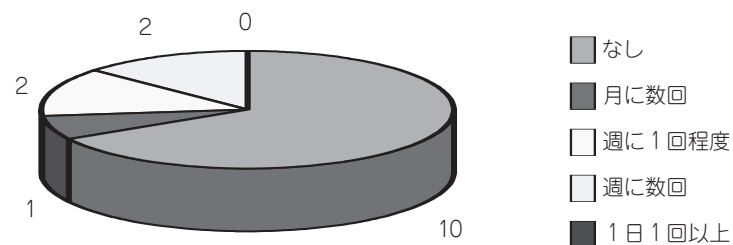
その結果、転倒群では股関節の外転、膝伸展に關与する中臀筋および大腿四頭筋の筋力が非転倒群より有意に低下していることが判明しました。

運動療法実施後、股関節の外転と膝伸展の筋力の増強を認め、転倒回数の減少が確認されました。介助者に関しては、運動療法実施後も、ヒヤリハットの件数は変化しませんでした。介助者の腰痛は軽減しました。

パーキンソン病患者および介助者に対する適切な運動療法の実施は、パーキンソン病患者さんのQOL改善に有用です。



パーキンソン病患者及び介助者に対する適切な運動療法の実施は、患者のQOL改善に有用だ



最近1ヶ月間での転倒（訓練後）